

## 【イベント案内】 IMF 世界銀行年次総会期間中の国際保健関連のイベントについて

皆様、いつもお世話になっております。

来る10月12日から14日、都内で『IMF 世界銀行年次総会』が開催されます。世界銀行とホスト国である日本政府は、今次総会の主要テーマとして『国際保健』を掲げています。

この年次総会に合わせ、国際保健に携わる国内 NGO 数団体は、国際 NGO 数団体と協働してイベントを開催いたします。国際保健分野で活躍される皆様には、ポスト MDGs を視野に、国際保健を巡る現状と今後の動向を見極めるよい機会として、ぜひご参加いただきたく、以下の通りご案内申し上げます。

### 1. イベント概要

#### 市民社会イベント「市民社会プログラム」

1)『保健への投資：誰のために？』

2012年10月12日(金) 12:30-14:00

2)『ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)：定義、目的、達成手段』

2012年10月12日(金) 14:00-15:30

主催：Japan CSO Network on Global Health(アフリカ日本協議会、オックスファム・ジャパン、ジョイセフ、ストップ結核パートナーシップ日本、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、日本リザルツ)、オックスファム・インターナショナル、セーブ・ザ・チルドレン UK、リザルツ US、世界銀行グループ(TBC)

開催場所：東京国際フォーラム

使用言語：日・英(同時通訳付き)

※当日は会場にて軽食をご用意しております。

詳細情報はこちら(英語)：

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/TOPICS/CSO/0,,contentMDK:23268353~pagePK:220503~piPK:220476~theSitePK:228717,00.html>

※ なお、このイベントは、主催機関が開催する以下のセミナーに対するカウンターセミナーとして開催されますので、ご興味のある方はこちらにも参加されてはいかがでしょうか。

#### 「Program of Seminars」

①『保健への投資の意義、再び！』

2012年10月11日(木) 15:00-16:30

②『ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：機会と教訓』

2012年10月11日(木) 16:45-18:15

主催：世界銀行グループ、財務省

詳細情報はこちら：[http://www.worldbank.org/pos/index\\_jp.html](http://www.worldbank.org/pos/index_jp.html)

## 2. 参加方法:

以上のいずれのイベントも、参加するためには、年次総会への事前参加登録申請を行う必要があります。申請ページはこちら: <https://www-amsweb-ext.imf.org/CSO-EXT/registration.aspx>

※ 9月24日が参加登録申請期限ですので、お急ぎください(IMF・世界銀行による審査があります)。

※ この参加登録は IMF 世界銀行総会への参加登録であり、セミナー毎の参加申し込みは不要です。後日主催機関より発表される情報を基に、セミナー会場までお越しください。

## 3. 「市民社会プログラム」論点説明

MDGs が国際社会の共通目標とされてきた過去 10 年強、国際保健分野は概ね、大目標である『貧困削減』の一環として国際的な優先課題となり、この分野への資金配分は、不十分ながらも、途上国予算、先進国 ODA とともに大きく増大しました。その結果、2008 年の G8 北海道洞爺湖サミットでは、資金の効果・効率向上策として、途上国主導の包括的な『保健システム強化』のあり方が議論されました。

しかしながら、08 年のリーマンショック以降各地で度重なる経済危機、これがもたらす先進国と新興国の力関係の変化により、「国際保健が開発の優先課題である」ことが当然視される時代は、あつけなく終焉を迎えてしまいました。途上国政府は外貨不足などの煽りを受け、次の経済危機に対しては保健予算を守る事が難しいだろうと見られ、ODA ドナーの中には、今後援助予算の削減を予定している国もあります。『保健システム強化』に向けた様々な取組も、いつの間にかあまり聞かれなくなってしまいました。

そして現在、国際開発業界で台頭しているのは、「包摂的な成長(inclusive growth)」という言葉であり、開発政策や援助介入の是非は、「包摂的な成長」の実現に資するかどうかで判断されようとしています。そこでは、「健全な経済成長のためにも保健医療は不可欠」という認識は、ある程度共有されていますが、経済成長のための手段として保健を重視するという姿勢は、ともすれば農村人口、貧困者、女性、子ども、社会的弱者などの健康を後回しにしかねず、その点で、今後の保健政策は、MDGs の時代とはまったく姿を変えたものとなる可能性もあります。

一方、このような潮流の変化を背景に国際保健の世界で急速にアジェンダ化しているのが、『ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(以下、UHC)』というコンセプトです。WHO は、UHC について「すべての人が、貧困のリスクに晒されずに必要かつ適切な保健医療サービスにアクセスできること」と定義していますが、実際に UHC の実現手段として議論されている中では、貧困者の利益や権利よりも、『政府支出の抑制』を優先しているものも見受けられます。市民社会としては、各国の財務大臣が集まる IMF 世銀の年次総会という機を捉え UHC の適正な定義の定着を図り、人々の権利に根ざした保健政策を進化させていくよう、幅広い議論を行い、主張を発信していくことが重要だと考えます。

今年の年次総会は、世界銀行が「保健への投資」の重要性を謳った 1993 年から 20 周年を目前に控え、また、MDGs の後継となる 2016 年以降の開発枠組みの策定に向けた議論が本格化するタイミングで行われるため、そこでの議論は、今後 10-20 年の開発潮流を左右する重要なものとなると予想されます。